

平成25年度 評価結果報告

フィードバックレポート

『小平市立あおぞら福祉センター』

NPO法人福祉経営ネットワーク

# I. 全体の講評

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	地域との交わりが盛んで、良好な関係の中で事業が円滑に進んでいる
	内容	地域住民には会議室を積極的に貸出しており、地域の人も地域交流の場として毎日のように活用している。事業所としても毎年、あおぞら健康講座を毎年実施し、地域住民の好評を博している。また、近隣の学校、自治会、企業、商店と親しく連携して地域防災訓練実施・歯ミフェスタ参加協力等を行い、地域社会の一員としての責任を果たしており、地域貢献をしている。また、ボランティアも協力的で毎月無料のヘアカットなど多くの利用から感謝されている。行政や関係機関との関係も良好で、地域に根づいた事業所ということが認識されている。
2	タイトル	利用者の権利擁護に関する取り組みの充実を図り、日々の業務を遂行する中で各職員の気づきを促すように努めている
	内容	利用者の権利を尊重した支援が日々行えるように、行動規範の内容を各職員が自己チェックする取り組みや倫理綱領の浸透を図るために各所に掲示する等の取り組みがある。加えて、権利擁護委員会が設置されており、昨年度と今年度に連続して虐待防止に関する内部研修を職員全体を対象に実施している。外部から講師を招き、事前に職員にアンケートを行って業務上で場合によっては虐待を想起するような事例を洗い出し、研修の場で検討する等の取り組みもあり、各職員の人権感覚を高め、気づきを促すように努めている。
3	タイトル	家族懇談会等を定期的に関き、家族と協力して利用者支援を行っている
	内容	家庭やグループホームと連携を密にとり、利用者が充実した生活が送れるように取り組んできている。家族と協力体制を整え意見や要望を真摯に受け止める事業所の姿勢は家族との信頼関係構築にも寄与している。連絡帳により家庭と事業所の様子を情報共有し、月だよりの発行、サービス事業者と話し合いの場も提供している。年3回開く家族懇談会では活発な意見交換が行われている。活動見学会では活動中の様子や支援状況の見学、給食の試食などを行い、終了後はアンケートを実施して意見を参考に改善に努め、さらによりサービス提供を目指している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	臨時職員とのいっそうのコミュニケーションを図り、一層の戦力化に期待したい
	内容	人事考課制度・目標管理制度は正規職員が対象で、研修計画は正規職員・嘱託職員が対象となっている。一方、臨時職員はその対象外であり、委員会や全体会議以外の会議には出席の義務はなく、昇給や賞与の対象外となっている。これらの処遇の違いは、契約時に了解しているものの、正規職員との連携場面等で気づかない溝が生じやすい。臨時職員が増加傾向の中、臨時職員に個別面談の実施などによりモチベーションアップを図り、臨時職員の一層の戦力化を期待したい。
2	タイトル	個別支援計画書の支援目標や利用者の課題に即した記録が日々蓄積されていくための工夫が望まれる
	内容	今年度、個別支援計画書の様式を変更したり、モニタリング実施等の一連の流れを整備することで、利用者一人ひとりへの支援が支援目標や利用者の課題に即したものとなるように取り組んでいる。一方、日々の記録は各職員により蓄積されているが、特記事項が中心となっている。また、項目別に記録を書くように工夫しているが、手書きで作成されているため、項目毎に推移を確認するには記録の加工が必要である。サービス改善プロジェクトで見直しを行っているところであるが、今後は個人記録の様式の工夫等、支援目標に対する記録にすることが望まれる。
3	タイトル	利用者の安全確保を前提とし、さらに尊厳を尊重した生活支援を図られたい
	内容	通所してくる利用者の心身の状況は、家族から連絡帳や電話連絡により情報を把握し、日々の体調の変化に合わせて安全で安心できるよう対応に努めている。排泄時間や尿量等生活リズムや介助方法は可能な限り家庭と同様に行い、利用者が混乱しないよう配慮している。食事時も足台や利用者の背丈に合わせてテーブルに置台をして高さの調節をするなど工夫しているが、食事提供場面では誤嚥の危険性の高い利用者に対して職員が立位で背面から介助しているケースもみられる。安全面はもとより尊厳の尊重の観点からも介助方法について再考を図られたい。